

えいのう 生産資材

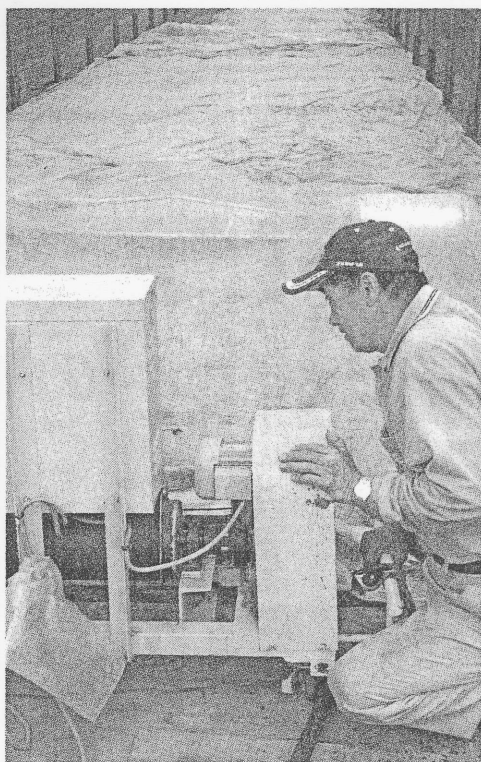
熱水土壤消毒装置「NS-IIH」(神奈川肥料)

神奈川肥料が製造・販売する熱水土壤消毒装置「NS-IIH」は、95度の熱水を地面に散布して殺菌する。減農薬栽培をする農家に広がりつつあり、臭化メチルの代替方法として取り入れる農家もいる。導入した農家の声を聞いた。

千葉県白子町で、ミニトマトを栽培する齋藤昭さん(64)は、3年前から取り入れた。以前は臭化メチルで土壌消毒していたが、原則的に使えなくなったことを受けて、代わりの方法を探っていた。生協にも出荷

千葉県白子町で、ミニトマトを栽培する齋藤昭さん(64)は、3年前から取り入れた。以前は臭化メチルで土壌消毒していたが、原則的に使えなくなったことを受けて、代わりの方法を探っていた。生協にも出荷

千葉県の齋藤さん



ハウス内に散布器やウインチを設置する齋藤さん(千葉県白子町)

😊😊😊
むらなく効果
散布作業は楽
準備が重労働

8月に苗を定植。10月から翌年6月に収穫する。う。この病原菌は、60度の高温に遭うと死ぬの

落ちることもあるという。この病原菌は、60度の高温に遭うと死ぬの

やはウインチを使って自動で引っ張るが、速度などはハウスの長さなどを

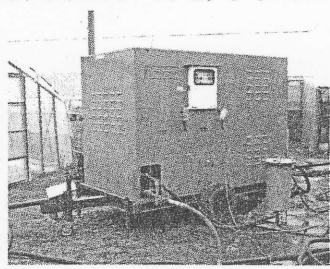
計算して設定ができる。齋藤さんは地下60センチまで熱水が入るように、時速3分の速さでワイヤを引っ張るようにセット。間口4分、長さ45分のハウスの消毒を12時間でする。20分を消毒するのにかかると、2週間かかる薬剤の消毒に比べれば時間はかからない。

ただ、難点もあり「使う前にボイラーやウインチなどをハウスの近くに設置し、ホースやワイヤでつなぐ作業は重労働」と指摘する。

腐病などで、春の収量が齋藤さんが導入した熱水土壤消毒装置は「神奈川方式」と呼ばれる構造。ボイラーから伸びたホースの先端に、熱水をまく散布器を付け、ウインチで一定速度で引っ張る。

熱水土壤消毒装置「NS-IIH」

ボイラーとウインチ、散布器、ホースなどがセット。ボイラーの火力は30～50キロワット。フォークリフトでトラックに積んで運ぶタイプと、トラクターでけん引するタイプがある。ウインチもワイヤの長さが50～100メートルで3種類ある。組み合わせ方で、価格は350万～600万円の範囲で変わる。問い合わせは神奈川肥料(神奈川)、(電)0463(58)5757。



ユーザ通信簿

費用悩みなら
レンタルでも
準備が大変なことだが、ほかの方法と比べると楽だ。

●メーカーから●

ワイヤがたるまないように設置すれば、100メートル引張っても10センチしかずれず、ハウスの柱に引っかかることはない。収量が増えるのは土壌がリフレッシュし、根の張りが

(神奈川肥料・窪田一豊取締役の話)